

# 中学生のもののみ方・考え方に基盤をおいた生徒指導のあり方

## —特に利己的なもののみ方・考え方について—

織田 長繁・原田 秀雄・新村 泰子・佐藤クニ子

「利己的なもの」を中学生はどのように理解し考えているかの現実を明らかにして、生徒指導の基盤とすることも無意味ではないと思う。しかし利己的なもののみ方・考え方のすべてを羅列するのは不可能であるので、本校で察知される場合を記すことにする。

「学校生活調査Ⅰ」で、掃除をどのように考えているかは次の次りである。(数字は%，以下同じ)

内 容	1年	2年	3年
当然の仕事と思う	58	57	58
きめられた仕事だからする	38	40	37
生徒の仕事とは思わない	4	3	5

また掃除をどのような態度でやっているかに対しては  
イ. 何時でもよくやる 12  
ロ. 時々はよくやる 40  
ハ. 大たい普通にやる 39  
ニ. 時々なまける 6.8  
ホ. 何時もなまける 2.2

掃除については、40%程度の生徒は与えられた仕事だからやるという消極的な態度で受け止めるし、その仕事ぶりも適当にやっておくものが多い。

公共物に対する消極的な態度は「学校生活調査Ⅱ」にも表われる。「放課中に他のクラスの生徒が来て、ゴミを落として行きました。始業のベルが鳴ってもそのままです。もしあなたがそのゴミに気がついたら、どうしますか」の間に對して

内 容	1年	2年	3年
ひろう	57	52	29
時と場合によってはひろう	28	29	42
ひろわない	15	18	29
わからない	0	2	0

となる。

この傾向は、同調査の「社会科の課題について図書館の本で調べようと思ったら、その本をA君が10日前

に借り出して行ったことがわかりました。(注・本校の図書の貸出は1週間である) A君に早く返すように頼んだら、課題に必要だからあと3日は返せないと言いました。あと3日といえば課題の提出日です。

1. この場合、A君の言動をどう思いますか
2. あなたがA君の立場だったらどうしますか

の問について、自由記述法の結果は

問	内 容	1年	2年	3年
1.	よくない	85	80	71
	もつともな事だ 当たりまえだ	15	20	26
2.	返す	83	65	56
	返さない	17	29	38
	わからない	0	5	6

となって現われてくる。Aの行動を是認するものが約20%程度あり、課題のために本を返さぬものが最高38%に達する。ここに、他人に迷惑をかけても自分を有利に運ぼうとする「利己的なもの」を認めざるを得ないのでなかろうか。

「利己的なもの」が何から発してくるかを究めるのは容易ではない。しかしその解明の1側面として、家庭との関係を考えた調査の結果が次表その1である。

(ア～コの中から、最も多く家で注意されたものを3つ選ばせた。数字は実数)

内 容	その1(生徒がうけた注意)			その2(家庭でした注意)		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
ア. 勉強のこと	71	78	66	67	76	64
イ. 兄弟姉妹のこと	34	42	32	28	28	28
ウ. 言葉使い	40	26	24	33	25	25
エ. 家事・手伝い	20	34	26	10	19	16
オ. 行儀のこと	23	22	25	41	32	25
カ. 性格のこと	22	26	19	31	32	25
キ. クラブのこと	26	32	12	0	5	9

# 一般研究

ク. 友人のこと	13	9	9	13	15	12
ケ. 公共物や公衆道徳	5	1	0	17	21	13
コ. その他	13	17	20	2	2	5

公共物や公衆道徳について、生徒が注意されたのは、他の項目に比べて極めて少ない。しかしこのことは注意されても気にとめないと認められ、または注意されること自体が少ないので、生徒側の立場からだけでは不明である。そのため家庭（主として母親）で、子供に注意した内容を尋ねたものが前表その2である。

この両表を比較すると、家庭では相当の注意を与えていた事実からみて、生徒がもっている公共物や公衆道徳に対する関心は浅いと言わざるを得ないと思う。この点に学校における指導の重要性が潜んでいるのであるまい。

これに応じて本校のとっている方法の主なものは次の通りである。

1. 道徳教育
2. 朝礼時における校長訓話
3. 各教科を通じて
4. 生徒会を通じて

## 5. クラブ活動を通じて

この生徒指導が行なわれる場は、教師側が正面に立てる場（上述の1～3）と、必ずしも教師が正面に立たないで行なう場（4, 5）が考えられる。従ってこの両者の指導方法には、異ったものがあつてもよいのではなかろうか。また上の諸表からいえることは学年進行に伴つて利己的な考え方が強くなっていくことである。

これらの問題に基いて二つの提案を行ないたい。

第1は、一つの問題が一般的観念として理解でき把握されたとしても、それが自分自身の問題として把握できにくい場合が多いことである。また、たとえ自分自身の問題としてとらえられたとしても、実践として現わすことが困難である傾向の解決である。これについては、尼崎市立大庄中学校の研究報告が見られるがこの解決についての基本的な考え方や実例を教示願いたい。

第2は一般に言われる反抗期の指導をどうするかである。反抗期の指導については多くの報告があるし、また本校でも実例（省略）があるが、その解決の一端を示す実例があれば教示願いたい。

(質問・応答……省略)